

- ★ ふさおとめ、ふさこがねの幼穂形成期は平年並み
- ★ 6月23日頃から、コシヒカリで幼穂形成期となる見込み！

1 君津地域の生育概況

6月6日から16日は、気温が低く、日照時間も少なく推移しましたが、「ふさおとめ」、「ふさこがね」の幼穂形成期は平年並みとなっています。4月20日植え「コシヒカリ」は6月23日頃から、「粒すけ」は6月22日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。

草丈はやや短く、葉色は平年並みに推移しています。茎数は、目標生育量に達しているほ場もありますが、全体としてはやや少ない傾向にあります。

穂肥については、初期生育が悪かったほ場があり、ほ場ごとに生育にばらつきがありますので、生育状況に応じて施肥の時期と量を決めましょう。

2 生育調査ほの調査結果※（6月15日）

品種		田植日	坪当たり 植付株数	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R4年	4/21	51	10.8	53	34.8	539	39.6
	R3年	4/16	51	11.4	59	42.7	658	42.9
	前年比	+5	100%	-0.6	90%	81%	82%	92%
ふさこがね (木更津市)	R4年	4/19	65	9.8	44	25.3	495	39.4
	平年値	4/21	63	10.3	47	22.5	427	40.4
	平年比	-2	103%	-0.5	94%	112%	116%	96%
コシヒカリ (君津市)	R4年	4/22	49	9.8	47	21.0	313	38.4
	平年値	4/26	53	9.8	57	39.9	639	39.1
	平年比	-4	92%	±0	82%	53%	49%	98%
粒すけ (君津市)	R4年	5/3	54	9.5	42	23.4	381	36.8
	平年値	5/3	53	10.3	50	31.3	505	42.0
	平年比	±0	102%	-0.8	84%	75%	75%	88%

※平年値について、ふさこがね、粒すけは令和2、3年の平均、コシヒカリは令和1～3年の平均です。ふさおとめは令和3年から新たなほ場で調査をしているため、平年値はありません。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 池田(いけだ) t.ikd79@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

① 「コシヒカリ」「粒すけ」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安
コシヒカリ	4月20日	6月23日頃	幼穂形成期7日後頃～15日後頃の間
	5月1日	6月28日頃	
粒すけ	4月20日	6月22日頃	幼穂形成期から7日後頃

※穂肥の施肥量は窒素と加里を 10a 当たり成分量で各 3kg が目安になります。

※幼穂形成期の 10 日～15 日後までが冷害危険期になります。

② 幼穂形成期の目標生育量

下の表を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。また、近年、収穫期前の降雨や強風により倒伏するほ場もみられますので、下の表を参考に、施肥量を調整しましょう。

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34 本)		520～570 (29～31 本)
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本)		
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本)		
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)	

※茎数の () 内は 60 株/坪植え時の 1 株当たり茎数の目安

③ 今後の水管理について（節水への御理解と御協力をお願いします！）

今年の梅雨は例年に比べ、少雨傾向が続いており、湧水への対応が必要となる可能性があります。かけ流し等には注意し、限られた水資源を有効利用しましょう。

※三島ダムの水位低下による湧水への対応として、節水への御理解と御協力をお願いいたします。

④ 斑点米カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の2週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。

⑤ 主要病害の防除

気象庁の1か月気温予報では、今後の気温が「高い」と予測されており、高温で発病が助長される紋枯病については多発する可能性があるので注意してください。

○いもち病：止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

○稲こうじ病：穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

○紋枯病：茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。飼料用米品種でも発生がみられるので注意しましょう。

※ 次号は「7月6日頃」発行予定